

# 水資源・生物多様性・プラスチック削減



## 水リスクアセスメントの実施

<https://nichirei.disclosure.site/ja/themes/88>

ニチレイグループでは、「持続可能なサプライチェーンの構築」のため、原材料生産や事業運営に使用する水資源の重要性を認識し、水資源保全や環境負荷低減に取り組んでいます。

水リスクに取り組むに当たり、拠点の取り組み状況とともに地域の状況を把握することが重要です。

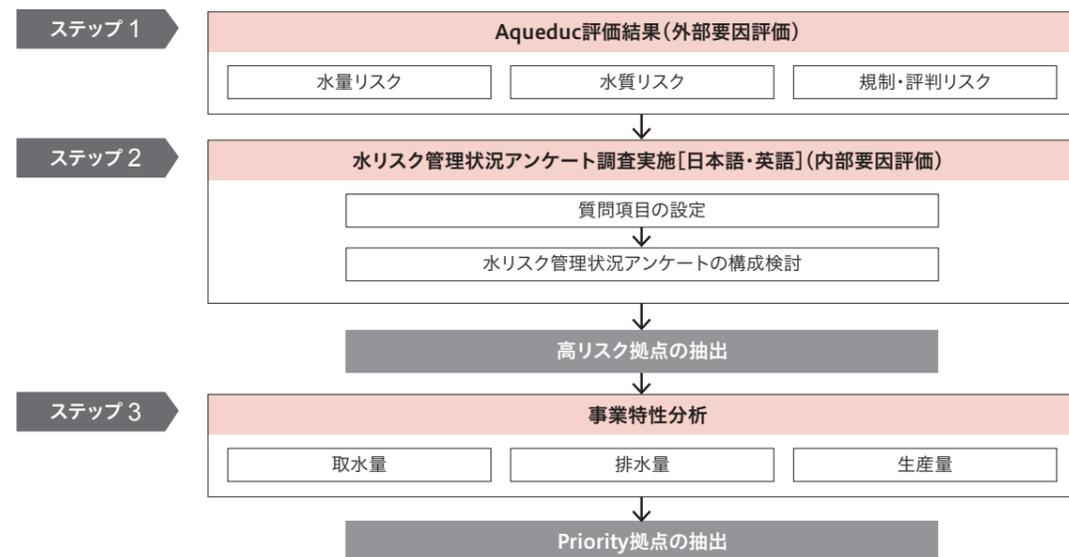
当社では、水リスクアセスメントとして、第三者機関の水リスク評価サービスにより、拠点の水リスクを評価しています。

評価においては、地域の水リスクを評価するWRI Aqueduct<sup>®</sup>に加え、拠点の取り組み状況を把握するべく、グループ全拠点へのアンケート調査を実施しました。

水リスクアセスメントは、ニチレイグループの国内・海外の全拠点(152拠点)について、WRI Aqueduct<sup>®</sup>の評価項目である「水量、水質、規制・評判」を対象に実施しました(図1)。表1には、水ストレス地域に位置する拠点数と、取水量の関係を示しています。水ストレスが非常に高い(Extremely High)3拠点(中国1拠点、タイ2拠点)については、今後、水リスク低減に向けた取り組みを実施していきます。

※WRI Aqueduct:国際環境NGOである世界資源研究所(WRI; World Resources Institute)が公開する、世界の水リスクを位置座標または住所から簡易的に評価するツール

### ■ 水リスクアセスメントフロー図



### ■ 水ストレスと取水量

水ストレス	拠点数	2018年度取水量(m <sup>3</sup> /年)			
		地表水	地下水	第三者の水	合計
合計	152	2,497,656	1,809,223	2,811,264	7,118,143
Extremely High(>80%)	3	2,371,459	0	468,382	2,839,841
High(40-80%)	0	0	0	0	0
Medium - High(20-40%)	54	0	458,403	1,491,420	1,949,823
Low - Medium(10-20%)	77	2,400	1,323,084	737,805	2,063,289
Low(<10%)	18	123,797	27,736	113,657	265,190

※事業規模縮小予定の拠点、および海外拠点の事務所・倉庫を除く

## 生物多様性の保全

### ■ 福島県裏磐梯の自然環境調査・環境および生物多様性の保全活動を支援

<https://nichirei.disclosure.site/ja/themes/89>

ニチレイグループは福島県裏磐梯の検原湖周辺に土地を所有しており、周辺の自然環境の調査と、それにもとづく環境や生物多様性の保全活動の支援を行っています。裏磐梯の所有地周辺は1888年の磐梯山の噴火によって植生が消失しましたが、125年ほど経過したことにより、アカマツ林、シロヤナギ、ヨシの湿地、湖沼の水生植物群落など、遷移途中の植生を見ることが出来ます。一方、裏磐梯高原には、この地に緑を蘇らせようとした人々によって植林されたアカマツの林が広がっていますが、当社所有地には植林地がなく、ほとんど手つかずの自然の遷移の様子を観察できる、学術的に貴重な土地となっています。

ニチレイでは2011年度より、福島大学大学院共生システム理工学専攻実践教育推進センターの自然共生・再生プロジェクト部(2016年より福島大学プロジェクト研究所「磐梯朝日自然環境保全研究所」)が実施する裏磐梯の自然に関する調査への支援を行ってきました。2019年度は「裏磐梯地域にある株式会社ニチレイ社有地内のヨシ湿地の昆虫相解明」と「『裏磐梯植物誌』出版を目指した植物の種多様性研究」に対する支援を実施しました。



裏磐梯地域の湖沼における水質調査



新種の可能性の高いヒメシロカゲロウ属

### ■ 絶滅危惧種アツモリソウの保護支援と生物多様性保全パートナーシップ協定

<https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/action/office>

ニチレイグループは、長野県富士見町でランをはじめとする園芸植物の研究・育種を行っていたことなどから、2003年度よりホテイアツモリをはじめとするアツモリソウ類の保全再生活動に参加しました。2014年度には人工増殖によるホテイアツモリの開花に成功し、2019年度には32株が開花するという成果をあげています。2019年2月、長野県、富士見町、富士見町アツモリソウ再生会議と当社は、「生物多様性保全パートナーシップ協定」を締結しました。協定期間は2022年3月31日までの3年間で、ニチレイグループはアツモリソウ類の保全再生に必要な技術提供や、活動に必要な経費の一部を支援していきます。



開花したアツモリソウ

## 容器包装におけるプラスチックの削減

ニチレイフーズでは、2006年より市販用冷凍食品の容器包装におけるプラスチック削減に取り組んでいます。

施策実施前と比べ、直近では対象7アイテムで約200トン強の削減になっています。今後も、パッケージや容器包装の見直しによりプラスチック削減を進めるとともに、CO<sub>2</sub>排出量削減に努めていきます。

### これまでのプラスチック削減への取り組み

年度	対象アイテム	施策
2006年度～	「今川焼」	トレー廃止
2009年度～	「焼おにぎり10個入」	トレー廃止
2011年度～	「本格炒め炒飯 <sup>®</sup> 」	パッケージ薄肉化
2014年度～	「焼おにぎり10個入」	パッケージ薄肉化
2015年度～	「本格炒め炒飯 <sup>®</sup> 」	パッケージ薄肉化(2回目)
2018年度～	「えびピラフ」「チキンライス」	パッケージ薄肉化
2019年度～	「えびとチーズのグラタン」「えびとチーズのドリア」	トレー薄肉化・手持ち部の幅を縮小



手持ち部の幅を縮小



改良前 改良後

全体像

経営戦略

事業戦略

社会課題解決

コーポレートガバナンス

トピックス

財務データ

株式情報/会社情報